

23区初、NPOと災害協定

レスキュー隊・救助犬の派遣を確認

30日、杉並区役所に、特定非営利活動法人(認定NPO)ピースウィンズ・ジャパン(代表理事：大西健丞・所在地：広島県神石高原町)のメンバーが訪れ、大規模地震等に被災した場合に、区からの要請でレスキュー隊や救助犬の派遣やテント、物資拠点用バルーンテントの提供などの支援を受けることを確認しました。

特定非営利活動法人(認定NPO)ピースウィンズ・ジャパンは、1996年2月に紛争地や災害被災地での人道支援を目的に設立されました。その設立以降、「必要な人びとに必要な支援を」をモットーに、世界26カ国で活動してきました。国内でも、東日本大震災や熊本地震で、救助活動や被災者支援で大きな実績をあげてきました。

杉並区では、今日にも起こるかもしれない首都直下地震に備えることを区の重要施策に位置付け取り組んでいます。特に、区内には木造住宅の密集地域が多く残り、それらの地域には、道幅4mに満たないような狭い道路に面していることが大半です。万が一、首都直下のようなマグニチュード7.3程度の地震が起きれば、家屋の倒壊し火災の発生も心配されます。こうした家屋の倒壊から、いち早く人命の救助を行うことが必要で、多くの経験と実績を持つピースウィンズ・ジャパンの協力を求めることとしました。

3月30日午後1時30分、杉並区危機管理室にピースウィンズ・ジャパンの緊急捜索救助チームの黄春源さんなどが訪れ、杉並区が首都直下地震などの大規模災害の被災を受けた時に、区からの要請に応じて、レスキュー隊及び救助犬派遣などの具体的な方法を確認しました。こうしたレスキューチームの派遣に踏み込んだ協定締結は、23区で初となります。

協定の締結は、3月21日に区と団体間で締結済みですが、この日は改めて災害時の連絡方法や顔の見える関係を築くとともに、隊員や救助犬などを広島県の活動拠点から搬送するヘリコプターの着陸地点などを確認し、いざという時に備えることとしました。協定では、レスキュー隊等の派遣のほかにも、テントや物資拠点用バルーンテント・避難所運営資機材などの提供を受けることが記されており、区民の生命・財産を守る大きな一歩となりました。



【報道機関 問い合わせ先】

危機管理室防災課 3312-2111 内線3601